

川と池ができて二年目の四月の末に大雨が降った。前の日から降り続いた雨は朝になってもまったく止む気配が無く、池は中之島も形を失い、大きさも二まわりも大きくなったかと思えた。氾濫の状況を確認しようと二階の窓から池を見ると、なんとそこには二羽のカモが巣しそうに泳いでいる。色姿からオスとメスであることがわかる。わたしたちの池にカモが。家の中から息を潜めて観察していると、カモたちは池から川を上流に泳ぎ始めた。時々、オスが水から上がり、メスが川を泳ぐのを見守ったりしている。ちょうど、家のまえの畑の脇を通り過ぎてしばらく行つたところでUターンして池に戻ってきた。確かに上流は細かに曲がりくねって勾配も急になるのでカモには泳ぎづらかったのだと思う。結局小一時間居た後、飛び立って行つた。

池を掘ってトンボやカエルがやって来たのはなんとなく想定範囲だったが、まさかカモまでやってくるとは。そもそもどうやって知つたのか。空から見てなのか、水の匂いを頼りにかそれはわからないが、小さな川と池と思つて居たが、自然界では立派な水辺として認識されたと言つて良いのではないかなんせ、カモはその時だけでなく十日後にもまたやって来たのだ。さすがに、ここに巣をつくる決断はしなかつたようだが、それでも大したことだ。

六月に入ると、池に黒いものが泳いでいるのが見えた。そのシュツとした姿はオタマジャクシではない。池の端の草に身を潜めて観察していると、それは紛れもなく魚だった。それも一尾だけでなく、少し大きめのが二尾、中くらいのが三尾そして小さいのが二尾と結構な数だ。それこそ上流から流れて来たのかも知れないが、ついに魚が放流もせず池を泳いでいるのを目にすることができたのだ。ただ、これもオタマジャクシの時のようにいつの間にか姿を見ることができなくなつてしまつた。

同じ六月の下旬には池の周りに地面を掘り返したような跡が見られた。明らかに獣の仕業と思われたが一体誰だろう。さつそくおもちゃのような暗視カメラを手に入れてセツトしてみた。最初に日は何も写つていなかったの、少し場所を変えてセツトしてみたが、それでも成果はなかつた。やはりおもちゃでダメかと思つた三日目、何かが写つていた。白黒動画でさらに気温が下がつてモヤのかかつたような画像だったが、尻尾の縞模様はアライグマと思われた。続けて同じ場所に翌日もセツトしてみたら、今度はモヤが発生していなくて鮮明な画像が記録されていた。

おもちゃカメラなので生き物の温度を感知してから録画が始まるタイミンが遅く近づいてくるところは写つてなくて、突然、池の中之島に掛けた小さな橋からぬつと顔を出してこちらに近づき、それも二匹。いや、三匹、いや、四匹。つぎつぎと池の方から出て来て木道に濡れた足跡をつけていった。親とおぼしき大きいのがしきりにカメラの匂いを嗅いでいる。そのうち視界から消えたのだが、子供たちに手洗いを教えていたのか。アライグマは農家も困るやっかいものだが、その後は警戒して姿を見せなくなつた。

